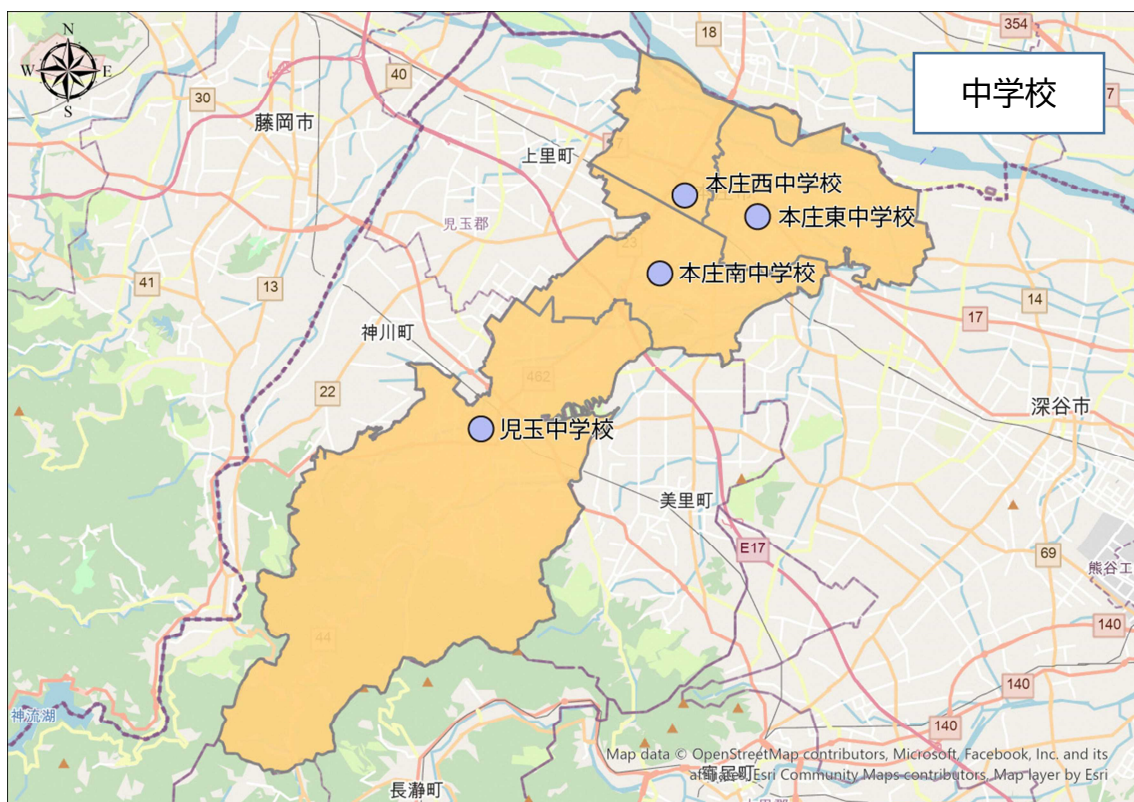


## 本庄市立小・中学校の現状と児童生徒数の将来推計について

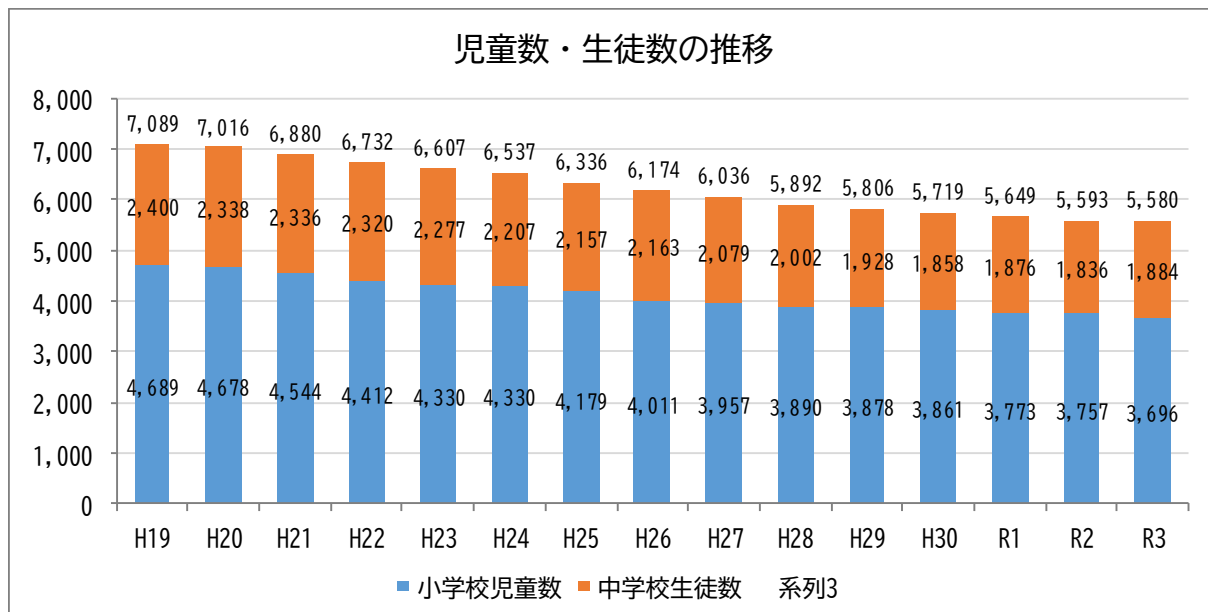
### 1. 学校施設の配置状況

本市の小・中学校の学校数は小学校13校、中学校4校で、配置状況及び学区は、以下の図のとおりです。なお、本泉小学校については、平成23年度より休校となっています。



## 2. 児童生徒数

本市の小・中学校の児童数・生徒数の近年の推移を見ると、平成19（2007）年度から令和3（2021）年度までの15年間では、小学校児童数は約21%（▲993人）、中学校生徒数は約22%（▲516人）の減少となっています。

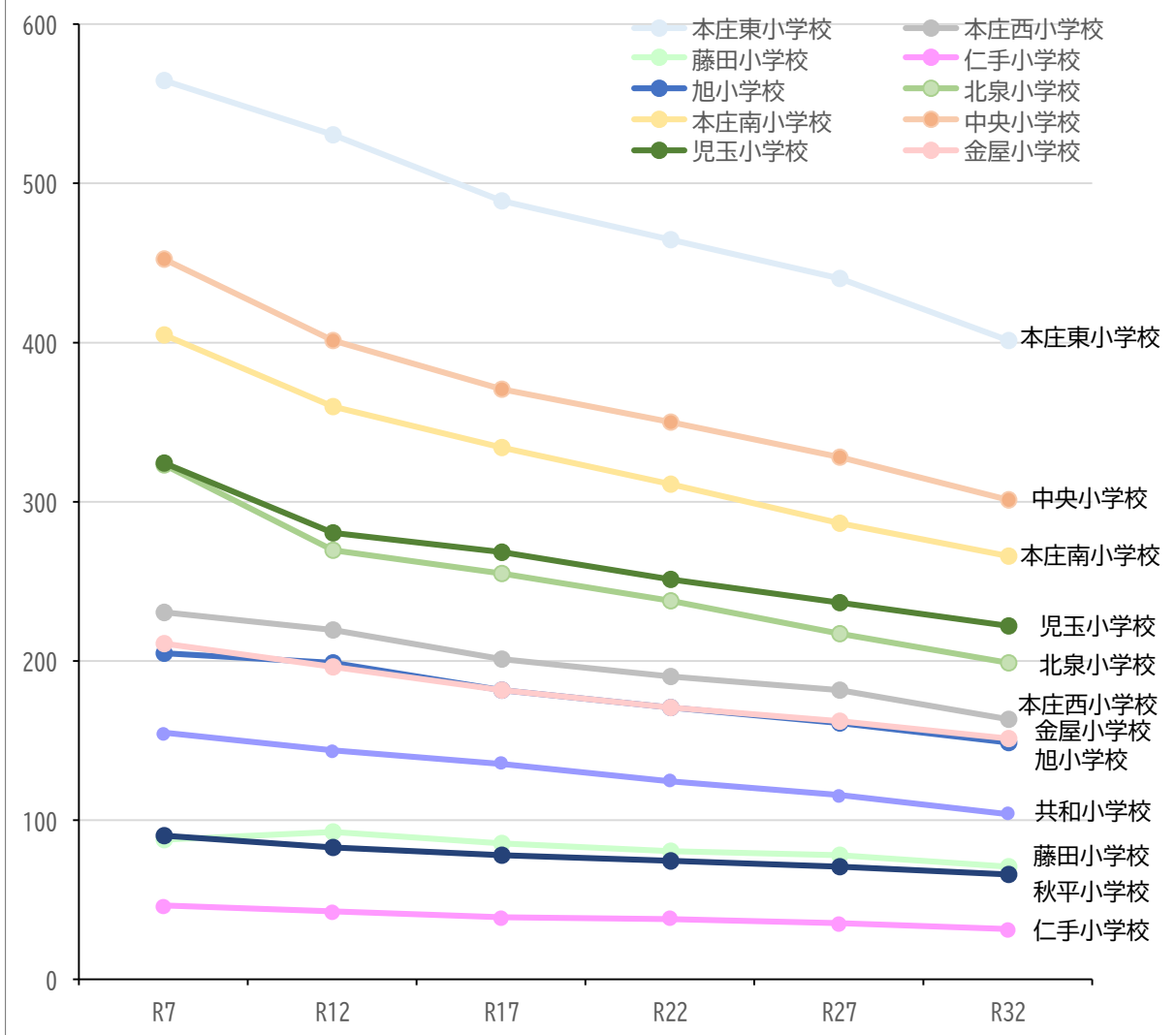


資料：学校基本調査

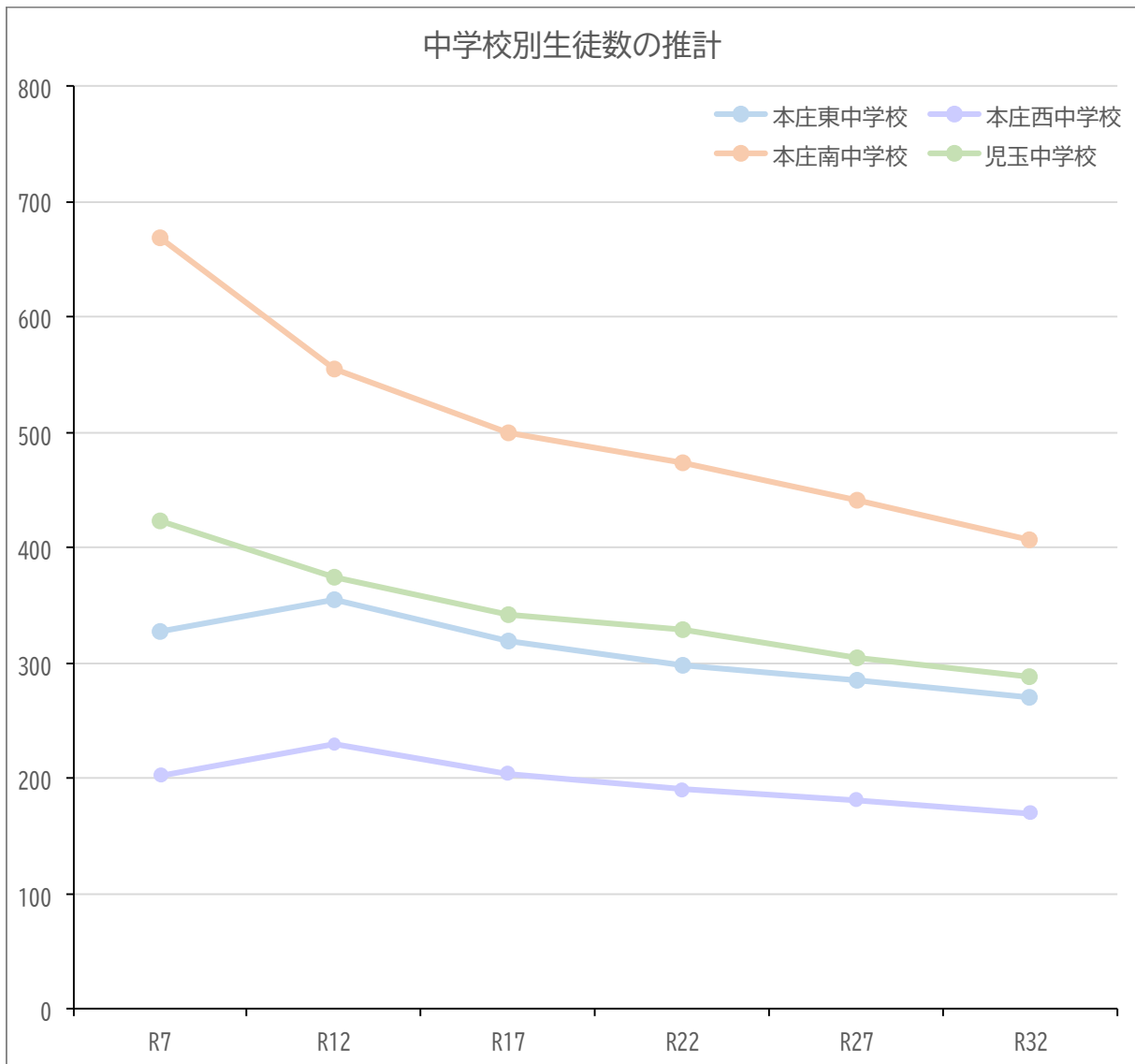
また、将来推計においても、いずれの小学校、中学校も今後更なる児童数・生徒数の減少が見込まれています。

小学校別児童数の推計	R7	R12	R17	R22	R27	R32
本庄東小学校	564	530	489	465	440	401
本庄西小学校	229	219	201	190	181	163
藤田小学校	88	92	85	80	77	70
仁手小学校	45	42	39	38	35	31
旭小学校	204	198	182	171	160	149
北泉小学校	322	269	254	238	216	198
本庄南小学校	405	359	334	310	286	266
中央小学校	452	401	370	350	327	301
児玉小学校	324	280	268	251	236	221
金屋小学校	211	196	182	170	162	151
秋平小学校	90	83	78	74	70	65
共和小学校	154	144	135	124	116	103
計	3,088	2,813	2,617	2,461	2,306	2,119

小学校別児童数の推計



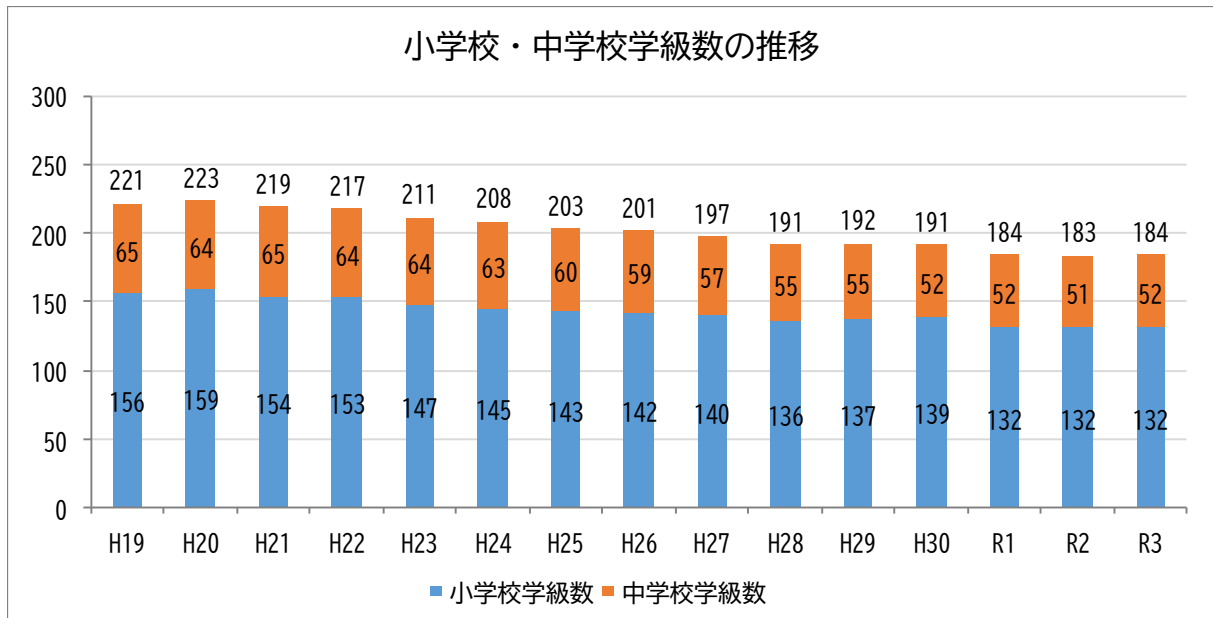
中学校別生徒数の推計	R7	R12	R17	R22	R27	R32
本庄東中学校	328	356	319	299	286	270
本庄西中学校	203	230	204	191	181	170
本庄南中学校	669	555	499	474	441	406
児玉中学校	423	375	342	329	304	288
計	1,623	1,516	1,364	1,293	1,212	1,134



### 3. 学級数

本市の小・中学校学級数の近年の推移を見ると、平成19(2007)年度から令和3(2021)年度までの15年間では、小学校学級数は約15%(▲24学級)、中学校学級数は約20%(▲13学級)の減少となっています。

前項の児童生徒数の推計結果を勘案すると、今後も小学校・中学校共に学級数の減少が進むことが見込まれています。



※特別支援学級を除く

資料：学校基本調査

令和4年4月1日時点の市内各小・中学校の児童生徒数は、以下のとおりとなっています。なお、小学校では、12校中6校が1学級だけの学年がある状況となっています。

小学校別 児童・学級数	児童数	学級数	うち 複式
本庄東小学校	614	17	
本庄西小学校	273	12	
藤田小学校	85	6	
仁手小学校	60	5	1
旭小学校	255	10	
北泉小学校	428	14	
本庄南小学校	448	13	
中央小学校	560	18	
児玉小学校	449	13	
金屋小学校	237	8	
秋平小学校	100	6	
共和小学校	171	6	
計	3,680	128	1

中学校別 生徒・学級数	生徒数	学級数	うち 複式
本庄東中学校	398	12	
本庄西中学校	311	9	
本庄南中学校	622	16	
児玉中学校	478	12	
計	1,809	49	0

※網掛け：1学級だけの学年がある小学校

#### 4. 一人当たりの維持管理費

本市の小・中学校における児童生徒一人当たりの維持管理費の推計は、小学校では増加傾向にあり、令和7（2025）年度から令和32（2050）年度にかけて最も増加率が高いのは、北泉小学校で約1.6倍、次いで本庄南小学校と中央小学校が約1.5倍となっています。これらの3小学校は、児童数の減少率が30%を超えているため、一人当たりの維持管理費の増加が見込まれています。

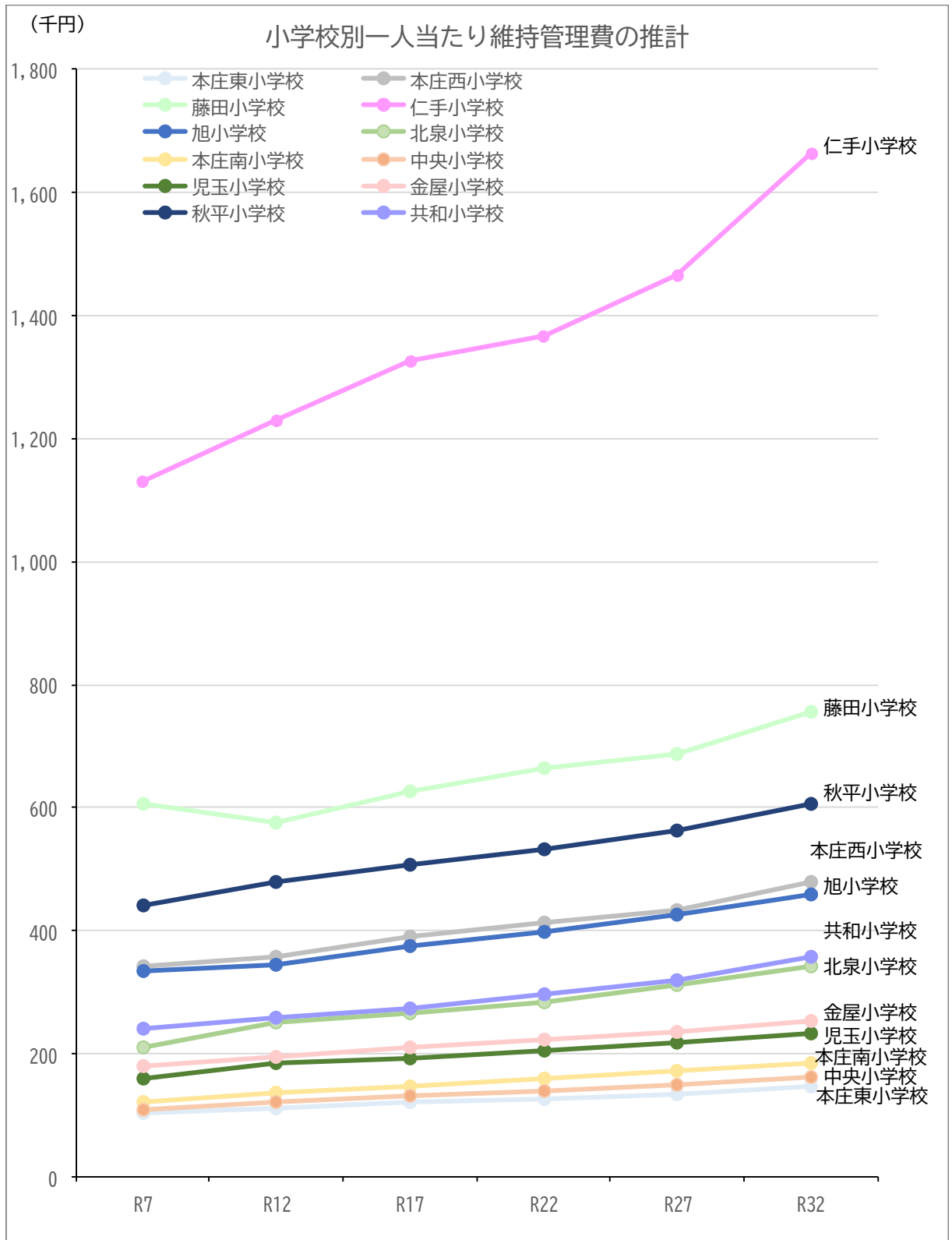
なお、一人当たりの維持管理費が最も高いのは仁手小学校で、令和7（2025）年度では1,130千円となっており、令和32（2050）年度には1,663千円となることが見込まれています。一方、一人当たりの維持管理費が最も低いのは本庄東小学校で、令和7（2025）年度では105千円となっており、令和32（2050）年度には147千円となることが見込まれていますが、仁手小学校と比較すると1/10程度となっています。

中学校でも令和32（2050）年度までの推計は増加傾向にあり、令和12（2030）年度には一旦、本庄東中学校と本庄西中学校で減少するものの、本庄南中学校は約1.6倍、児玉中学校は約1.5倍となっています。

なお、一人当たりの維持管理費が最も高いのは本庄西中学校で、令和7（2025）年度では305千円となっており、令和32（2050）年度には363千円となることが見込まれています。一方、一人当たりの維持管理費が最も低いのは児玉中学校で、令和7（2025）年度では148千円となっており、令和32（2050）年度には217千円となることが見込まれていますが、本庄西中学校と比較すると6/10程度となっています。

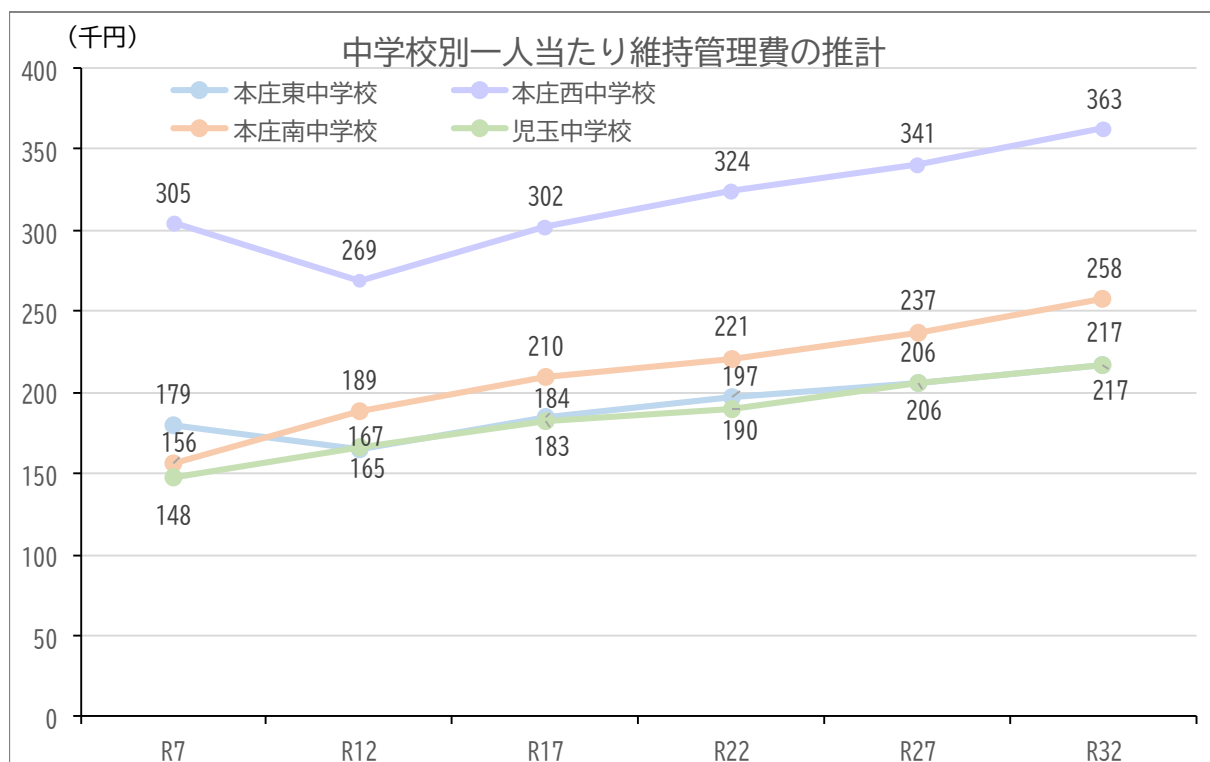
（単位：千円）

小学校別一人当たり 維持管理費の推計	R7	R12	R17	R22	R27	R32
本庄東小学校	105	111	121	127	134	147
本庄西小学校	342	358	391	413	434	480
藤田小学校	606	577	625	664	687	755
仁手小学校	1,130	1,229	1,326	1,366	1,465	1,663
旭小学校	335	345	375	399	425	459
北泉小学校	210	252	266	284	313	342
本庄南小学校	122	138	148	159	173	186
中央小学校	109	122	133	140	150	163
児玉小学校	160	185	193	206	219	234
金屋小学校	181	194	210	224	236	253
秋平小学校	441	479	508	533	562	607
共和小学校	240	258	273	297	320	358



(単位：千円)

中学校別一人当たり 維持管理費の推計	R7	R12	R17	R22	R27	R32
本庄東中学校	179	165	184	197	206	217
本庄西中学校	305	269	302	324	341	363
本庄南中学校	156	189	210	221	237	258
児玉中学校	148	167	183	190	206	217





## 5. 改修の時期と費用

平成 29（2017）年 3 月に策定された「本庄市公共施設維持保全計画」において、本市の小・中学校における主要施設（校舎等）は、長寿命化対象施設として目標使用年数を 80 年に設定しています。

また、目標使用年数の 80 年に対して、築 20 年目及び 60 年目に機能回復のための計画改修、築 40 年目に機能向上のための大規模改修を実施することを標準サイクルとしています。

実際に改修を実施する際は、過去の改修状況や建築基準法第 12 条に基づく点検等の各種法令に基づく点検結果による劣化状況を踏まえて実施するものとなります。

改修時期	小学校				中学校	
R4～8 年	本庄東小	本庄西小	藤田小	旭小	本庄西中	本庄南中
	北泉小	本庄南小	中央小	児玉小		
	金屋小	秋平小	共和小			
R9～13 年	仁手小				児玉中	
R14～18 年						
R19～23 年					本庄東中	

「本庄市公共施設維持保全計画」においては、長寿命化を考慮した場合の市の将来改修・更新費推計を行い、平準化した上で各施設の改修・更新時期を設定しています。

これによると、今後 10 年間に事業実施時期を迎える大規模改修及び計画改修に関する費用の合計は、小学校で約 63.4 億円、中学校で合計約 30.7 億円となり、合わせて約 94 億円の改修費用が見込まれていることから、財政負担増加が懸念されます。